

# 学区略図



## 地名の由来

高掬の地名は、古い時代の文書に「高掬」と書いてある。「掬」は、ハルニレのことである。芳賀地区の元屋敷と言われるところに諏訪神社があるが、その境内に4本のハルニレの巨木がある。樹齢400年くらいは経っているとの話である。この巨木は人の手によって植えられたのではなく、自然に育った木であり、この地区は、古い時代にはこうしたハルニレの木が多かったことが推測される。さらに、このハルニレは地区の人たちからは、ニレとは呼ばれずに、ほとんど「タモ」と呼ばれている。こうしたことから、「たかたま」が自然と「たかたま」に転化し、漢字も、「掬」からタモという字の「掬」になり、さらに「掬」の字が使われるようになったと考えられる。